

【令和7年度 第3号】

R7. 9. 29発行

全日制 開陽 だより



全開！

鹿児島県立開陽高等学校全日制課程発行

〒891-0198 鹿児島市西谷山1丁目2番1号

TEL (099)263-3710 / FAX (099)260-8233



活躍する生徒たち

★ 中野瑛菜さん(312HR)(美術部)

6月13日(金)から15日(日)に、沖縄県立博物館・美術館で開催された第9回全九州高等学校総合文化祭沖縄大会美術・工芸部門に県代表として参加しました。中野さんの出品作である「海への想い」という壺には海とともにある命や海の恐ろしさが表現されています。



大会初日はそれぞれが自分の作品について解説したり意見交換したりと交流を深め、2日目は首里城を見学したり、沖縄県立芸術大学で漆喰シーサーの制作をしたりしました。3日目は琉球大学名誉教授で彫刻家の西村貞夫氏による講評と講演がありました。



中野さんは、「首里城では、かつて琉球王国の中心として栄えた歴史を感じ、赤瓦の屋根や朱色の門に、独自の美意識が息づいていることに感動しました。」「沖縄の龍は、中国の龍のように空を飛び、雨を呼び、国を守る神聖な存在とされています。龍は“国王を守る存在”として城を見下ろすように配置されており、その姿から沖縄の人々が自然や神々とともに生きてきたことを感じました。」「宝玉をくわえた獅子が空を見上げると、そこにはもっと輝く宝玉、月が浮かんでいたという伝説。この話から、今見えているものの先に、もっと

大きな世界や意味が広がっているのだと気づかされました。それは、作品づくりにおいても同じだと思います。沖縄の文化には、自然を敬い、人と人とのつながりを大切にする温かさがあります。その文化に触れることができ、私の中に新しい視点を芽生えさせてくれました。」と感想を述べていました。

★ 東宏樹さん(314HR)(第10期トビタテ留学生)

9月18日(木)から10月20日(月)の日程で、「人を笑顔にできるナポリピッツァ職人を目指しイタリア留学挑戦!」東さんは先立つ6月、東京で第10期生を代表して決意表明をしました。「Buongiorno! Mi chiamo Hiroki Higashi. Io vorrei fare Pizzaiolo!」イタリア語で始まり、「これから待っているであろう、たくさんの『経験』や『出会い』を想うとワクワクが止まりません!FORZA!! Grazie mille」イタリア語で終わるスピーチは好評でした。

東さんがナポリピッツァと出会ったのは小学2年生の時。それ以来自宅でもピッツァを焼くようになり、たくさんの経験を積み、ついには石窯の制作にも挑戦しました。東さんの心を掴んだナポリピッツァとは、「シンプルな材料で作る、繊細で、奥深いナポリの郷土料理」です。「職人の技術、生地の扱い方一つで、味は大きく変化」します。東さんは「ナポリを五感で感じたい、本場のナポリピッツァを学びたい」という思いが日に日に強くなり、留学を決意しました。」と語ります。



東さんの留学のテーマは、「鹿児島とナポリをつなぐ『鹿児島ナポリピッツァ』を作るために」です。実は鹿児島とナポリは姉妹都市になって今年で65年を迎えます。「鹿児島の豊かな食材とナポリピッツァを組み合わせたい『鹿児島ナポリピッツァ』を通じて、鹿児島の魅力を発信したい」というのが東さんの思いです。

ナポリでは、17日間のピッツァの講習の受講、ホームステイ先での料理教室、小麦粉やチーズ、トマト缶工場の見学、ピッツェリアや市場の訪問などの活動を通して、「『鹿児島ナポリピッツァ』を作るための基礎を学び、ナポリの人、文化に触れたい」と考えているそうです。帰国後は、「ナポリでの経験をもとに『鹿児島ナポリピッツァ』を完成させ、たくさんの方に食べていただきたい。そして将来は、鹿児島・ナポリ両都市の魅力を世界中に発信し、人々に笑顔を届けられる、最高のピッツァ職人になります。」と力強く宣言しました。

★ 富迫怜さん、有馬みらいさん、西優里奈さん(221HR)

8月22日(金)、佐賀県神埼市中央公民館で開催された第12回九州地区介護技術コンテストに、県代表として参加しました。全8校中3番目に出場し、奨励賞を受賞しました。



お知らせ
10月18日(土) 体育祭
11月6日(木)15:15~ わたしの意見発表会